

ヒグマ

ヒグマ（学名：Ursus arctos）は、世界最大級のクマであり、ホッキョクグマに次いで 2 番目に大きな種です。ヒグマは、ユーラシア大陸、北米（北米ではグリズリーベアと呼ばれます）および北海道に見られます。北海道でヒグマの数が最も多いのは、釧路の北東にある知床です。

生ける神

先住民であるアイヌの人々は、クマを山の神（アイヌ語でキムンカムイ）だと考えています。伝統的に、クマは毛皮と肉のために獲られており、毛皮と肉は山の神からの贈り物だと考えられていました。クマを殺す際、アイヌの人々は、クマの魂を神の世界に帰す儀式を行っていました。

多様な食生活

ヒグマは雑食です。ヒグマの餌には、サケやマス、小型哺乳類、そして時にはエゾシカが含まれます。また、どんぐり、ふき、果物などの植物も食べます。ヒグマは、冬の間は洞穴で冬眠し、春（4～5 月頃）にそこから起きてきます。ヒグマと人間は、通常は平和に共存していますが、ヒグマによる攻撃も時には報告されており、森を歩く際には注意すべきです。